

蔵出しお宝展

—揮毫 重要・登録有形文化財を中心に—

目 録



第一観測台 内部

2012年7月3日（火）—7月31日（火）

東京海洋大学明治丸海事ミュージアム

ごあいさつ

このたび東京海洋大学明治丸海事ミュージアムでは、本学が所蔵する貴重な文化財・資料から選出して、企画展示「蔵出しお宝展」を開催いたします。

東京海洋大学は、2003 年 10 月に東京商船大学と東京水産大学が統合して誕生した大学です。東京商船大学と東京水産大学は明治に創設された歴史と伝統がある大学ですが、両大学に共通しているところは、日本が近代国家として生まれ変わろうとするために、必要欠くべからざる存在として位置づけられてきたことです。すなわち、海運、水産を支える優秀な人材を育成するために創立され、今日まで、時代の要請に適応するように幾多の改革を経て現在に至っております。

以上のような長い歴史の間に、本学は数多くの貴重な文化財・資料を所有することができました。その中で、第一に挙げるべきは、重要文化財である明治丸ですが、そればかりでなく、海洋工学部のキャンパス内には、登録有形文化財に指定された建物が数多く存在しております。本展示におきまして、これらの建物の設計図等を写真にて紹介いたします。

さらに、商船学校の時代に、多くの著名人が講演に訪れ、その記念として書あるいは揮毫を書いてくれています。著名人は、大まかに分類すると、文化人、政治家および軍人の 3 つになりますが、いずれも、各界で活躍した人であります。本展示においては、その中から重要と思われる著者の揮毫を展示いたします。

品川にある海洋科学部にも同様に数多くの貴重な資料がありますが、今回は、その中から海事ミュージアムにふさわしい書を展示いたします。それは、1929 年にバタビアで開催の第四回太平洋学術会議参加のため北ボルネオのタワオからインドネシアのスラバヤへの航行途中、赤道を通過したことを記念しての参加者全員の寄せ書きです。

明治、大正、昭和の我が国の「知」が、あるいは建築、あるいは書として、本学に遺した文化財・資料をご覧いただくことにより、我が国の歩んだ歴史に想いを馳せる契機となれば幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、ご協力をいただきました関係各位の皆様に心より御礼を申し上げます。

2012 年 7 月

東京海洋大学明治丸海事ミュージアム館長 松下 修

展示目録 揮毫編

※ イヌカイ ツヨシ

犬養 毅 墨書 大正十三年一月

(政治家、第二十九代内閣総理大臣)

「無所畏」

※ イヌカイ ツヨシ

犬養 毅 墨書 大正十三年一月

(政治家、第二十九代内閣総理大臣)

「一心不息從始至 俗無有懈怠名 為精進」

※ シオノヤ オン

鹽谷 温 墨書 昭和八年

(漢学者、東京帝国大学名誉教授)

「所其 無逸」

※ アボ キヨカズ

安保 清種 墨書 昭和十年

(日本海海戦時の戦艦「三笠」砲術長、海軍大将、海軍大臣)

「静心 養正」

※ トクガワ クニユキ

徳川 圀順 墨書 昭和十年

(水戸徳川家第十三代当主、政治家、陸軍軍人)

「学問事 業不殊 其効」

※ シラトリ クラキチ

白鳥 庫吉 墨書 不明

(東洋史学者、文学博士、東京帝国大学教授)

「武以拓 之文以 治之」

※ イトウ チュウタ

伊東 忠太 墨象図署名印 昭和十二年

(明治―昭和の建築家・建築史家)

※ タケウチ シゲトシ

竹内 重利 墨書 昭和十二年

(日本海海戦時の第二艦隊参謀、海軍中将)

「勇猛 奮進」

※ タカハシ タツオ

高橋 龍雄 墨風景図署名印 昭和十二年

(国語学者、慶応大学教授)

「人にして 神に近きは あさほらけ ふし見る ときのことろ なりけり」

※ タカクス ジュンジロウ

高楠 順次郎 墨書 昭和十二年

(明治―昭和の仏教学者、文学博士)

「無筆而画者 形影也無脚 而馳者感應 也」

※ ナガスマ ケンカイ

長沼 賢海 墨書 昭和十七年六月

(国史学者、九州帝国大学教授)

「七轉八起 之□」

※ ヤマナシ カツノシン

山梨 勝之進 墨書 昭和十六年八月

(海軍大将、学習院長)

「駕万里風」

※ イシタ ハキヨウ

石田 波郷 墨句 昭和四十一年

(俳人)(昭和三十一年来学)

「足もとに 昏る、牛蒡や 牛蒡市」

※
ワタナベ セイジロウ
渡邊 清次郎 墨書 昭和十二年十一月
(日本最古参の船長の一人、幕府軍艦開陽丸、明治丸等に乗船)

「有道 行其志」

※
クマモト アリタカ

隈本 有尚 墨書 昭和十三年一月
(教育者・天文学者・数学者)

「天行健」

※
ナカムラ コウヤ

中村 孝也 墨書 昭和十三年二月
(歴史学者、東京帝国大学名誉教授)

「月明飛錫 下天風」

※
オオクラ キンモチ

大蔵 公望 墨書 昭和十三年五月
(大正―昭和時代の官僚・政治家)

「和心協力」

※
ナガイ マツノウ

永井 松三 墨書 昭和十三年六月
(外交官、外務次官)

「四海同仁」

※
カモ マサオ

加茂 正雄 墨書 昭和十三年
(工學博士、東京帝国大学教授)

「氣宇阮吞 五大海」

※
オオカワチ デンシチ

大川内 傳七 墨書 昭和十四年五月
(海軍中將)

「八紘一字」

※
ヨシタ シゲル
吉田 茂 墨書 昭和十四年六月
(米内内閣の厚生大臣、小磯内閣の軍需大臣、
第四十五、四十八―五十一代 内閣総理大臣吉田茂とは別人)

「大道無寄」

※
ヤナギタ クニオ

柳田 國男 墨署名 昭和十四年十二月
(民俗学者、文化勲章受章者)

※
キムラ マスタロウ

木村 増太郎 墨署名 昭和十五年一月
(経済学博士、商業会議所理事長)

※
ミヤモト タケノスケ

宮本 武之輔 墨書 昭和十五年五月
(工學博士、信濃川大河津自在堰復旧責任者)

「信為萬事 本」

※
ヤマグチ ステジ

山口 捨次 墨署名 昭和十五年五月
(海軍中佐)

※
ツルミ ユウスケ

鶴見 祐輔 墨書 昭和十五年十一月
(政治家・著述業)

「□々 一千年」

※
第四回太平洋学術会議
参列途次赤道通過記念

墨署名 昭和四年五月

- 鯨井恒太郎 (東京帝国大学教授)
- 畑井新喜司 (東北帝国大学教授)
- 藤岡光長 (東京帝国大学教授)

等公議出席者十名

展示目録 史跡編

1号館

※ 旧 東京商船大学	1号館 正面	(現 東京海洋大学 越中島キャンパス 1号館)
※ 旧 東京商船大学	1号館 北側 測深儀	(現 東京海洋大学 越中島キャンパス 1号館)
※ 旧 東京商船大学	1号館 玄関	(現 東京海洋大学 越中島キャンパス 1号館)
※ 旧 東京商船大学	1号館 立面図	
※ 東京商船学校	正面および側面図 (写)	

越中島会館

※ 旧 東京商船大学	2号館 正面	(現 東京海洋大学 越中島会館)
※ 旧 東京商船大学	2号館 光天井	(現 東京海洋大学 越中島会館)
※ 旧 東京商船大学	2号館 俯瞰図 昭和35年	(現 東京海洋大学 越中島会館)
※ 旧 東京商船大学	2号館 北東側立面図	山根拓大氏 提供
※ 旧 東京商船大学	2号館 復原図	山根拓大氏 提供

先端科学技術研究センター

※ 旧 東京商船大学	事務局管理棟	(現 東京海洋大学 先端科学技術研究センター)
※ 旧 東京商船大学	事務局管理棟 (戦前)	(現 東京海洋大学 先端科学技術研究センター)
※ 旧 東京商船大学	事務局管理棟 (戦前)	(現 東京海洋大学 先端科学技術研究センター)
※ 旧 東京商船大学	事務局管理棟 立面図	
※ 旧 東京商船大学	事務局管理棟 平面図	

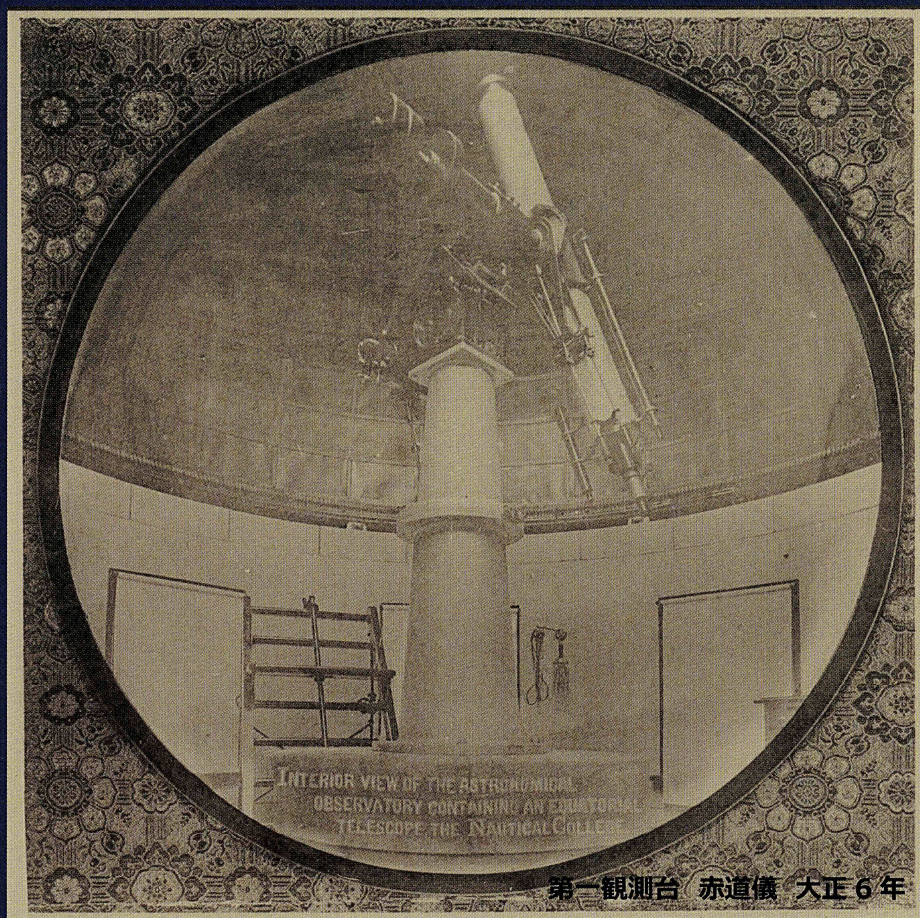
第一観測台・第二観測台

※ 旧 東京商船大学	第一観測台・第二観測台	(現 東京海洋大学 第一観測台・第二観測台)
※ 旧 東京商船大学	第一観測台・第二観測台	(戦前)
※ 旧 東京商船大学	第一観測台 内部	(現 東京海洋大学 第一観測台・第二観測台)
※ 旧 東京商船大学	第一観測台 7吋赤道儀望遠鏡	大正10年
※ 旧 東京商船大学	第二観測台 内部	(現 東京海洋大学 第一観測台・第二観測台)
※ 旧 東京商船大学	第二観測台 子午儀	大正10年
※ 旧 東京商船大学	第一観測台 立面図	
※ 旧 東京商船大学	第一観測台 平面図	
※ 旧 東京商船大学	第二観測台 立面図/平面図	

明治丸

※ 明治丸		
※ 明治丸	(戦前)	
※ 新船概要図 (複製)	明治6年	(国立公文書館蔵)
※ 明治丸当初計画図 (複製)	明治6年	(国立公文書館蔵)
※ 明治丸模型		

※史跡名称は重要・登録有形文化財の名称を基とした



ご協力いただいた方々及び機関名（順不同、敬称略）

山根 拓大・伊藤 洋子（芝浦工業大学教授）
 田崎 宣義（一橋大学名誉教授）・柏崎 順子（一橋大学大学院教授）
 佐藤 実（大妻女子大学准教授）・河本 純（一橋大学院大学院生）
 日本建築学会建築博物館・石田波郷記念館

蔵出し お宝展

— 揮毫 重要・登録有形文化財を中心に —

発行日 平成 24（2012）年 7 月 1 日
 編集 東京海洋大学附属図書館
 発行 東京海洋大学明治丸海事ミュージアム
 〒135-8533 東京都江東区越中島 2-1-6
 TEL : 03-5245-7360
 E-mail : meijimaru@o.kaiyodai.ac.jp